

論文審査の結果の要旨

報告番号	博(医歯薬)甲第 797 号	氏名	長浦 由紀
学位審査委員	主査	前田 隆浩	
	副査	佐々木 均	
	副査	中根 秀之	
<p>論文審査の結果の要旨</p> <p>1 研究目的の評価 本研究は、心理社会的に不安状態を呈しやすい中年期に焦点を絞り、総合診療科を受診した不安障害患者に対する認知行動療法的アプローチによる心理療法の効果と、心理療法が患者に与えるストレスについて明らかにしようとしたもので、目的は十分に妥当である。</p> <p>2 研究手法に関する評価 総合診療科外来を受診した不安障害患者を薬物療法群と薬物療法+心理療法群に無作為に割り付け、36-Item Short-Form Health Survey (SF-36)、状態-特性不安尺度 (STAI) を治療開始前後で測定し、治療達成感について Visual Analogue Scale (VAS) を用いて評価していた。また、唾液中コルチゾール値を心理療法前後で測定し、治療効果と心理療法による生理的反応について統計学的に比較検討しており、研究手法も妥当である。</p> <p>3 解析・考察の評価 上記手法で解析した結果、認知行動療法的アプローチによる心理療法は患者にストレスを与えるものではなく、SF-36 や STAI 状態スコアが改善することから不安に伴う身体症状改善に寄与する可能性が示唆された。総合診療科を受診した中年期の不安障害患者に対する心理療法の有効性が示され、今後、心理療法活用に向けた研究の進展が大いに期待される。</p> <p>以上のように本論文は不安障害研究に貢献するところが大きく、審査委員は全員一致で博士（医学）の学位に値するものと判断した。</p>			